

# 令和2年度 徳島県立名西高等学校経営計画

## 1 学校教育目標

- 1 本校の歴史と伝統を重んじ、知・徳・体の調和がとれた、誠実で民主的・創造的な実践力のある心身ともにたくましい人間を育成する。
- 2 生徒一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばすとともに、個人の尊厳と基本的人権を尊重し、民主社会の実現に貢献できる人間を育成する。
- 3 我が国の文化と伝統を尊重するとともに、平和な国際社会づくりに貢献できる人材を育成する。

## 2 学校経営基本方針

- 1 明日に輝く名高生～挑戦・協力・創造できる生徒の育成に努める。
- 2 「文化芸術リーディングハイスクール」による芸術科の活性化と地域に愛される学校づくりに努める。

## 3 本年度重点目標

- ① 基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の充実
- ② 自他を大切に作る心や態度を育成
- ③ 社会的自立のために必要な能力や態度の育成
- ④ 基礎的・基本的な学力の育成
- ⑤ 活力ある部活動と学校をリードする生徒の育成
- ⑥ 地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進
- ⑦ 文化芸術活動における地域への積極的な創造発信
- ⑧ 防災・安全教育の徹底と環境教育の推進

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
基本的 生活習慣の 確立を 図る 生徒指導の 充実	①基本的な生活習慣の確立を図る 生徒指導の充実	生徒指導課 各学年主任	評価指標	① 遅刻者数を700人以下にする。(H30は818人, R1は718人)	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B  (所見) スマホの指導については、スマホマナーアップ運動を生徒会・PTAと連携して推進するなど独自の取組を実施することができ、2年連続でスマホが原因の特別指導はなかった。しかし、遅刻者数と交通事故の目標を達成することができなかったため、さらに指導方法等の工夫改善を図りたい。
			② スマホマナーアップ運動を充実させ、スマホが原因による特別指導を0にする。(R1, 0件)	② 携帯電話安全教室など様々な取組の効果もあり、スマホが原因となる特別指導はなかった。		
			③ 交通事故防止と交通マナー向上の指導を徹底させ、登下校における交通事故を3件以内にする。(R1は4件)	③ 登下校中の接触事故は7件あり、目標を達成できなかった。しかし、命に関わるような事故はなく、ほとんどが軽傷の事故であった。		
		生徒指導課 各学年主任	活動計画	① 「遅刻ゼロの日」や「考査時の5分前登校」の取組を充実させる。また、遅刻カードで遅刻数や理由を確認し、個別に指導する。声かけ指導も毎朝実施する。	活動計画の実施状況	① 生徒に遅刻カードを記入させ、捺印の際に遅刻数や理由を確認し、個に応じた指導を実施した。また、遅刻ゼロの日の前日には、生活委員が校門前で呼びかけるなどの取組や考査時は5分前登校も実施した。毎朝、声かけ指導もおこなった。
			② スマホ安全教室の実施やクリアファイルの配布、ポスター掲示など啓発に努める。また、生徒会やPTAと連携を図る。	② クリアファイルの配布やポスター掲示をして、スマホマナーアップ運動の浸透に努めた。また、生徒会やPTAも総会で宣言を発表し、運動の推進が図れた。		
			③ 登校時の立哨指導(毎日)、街頭指導(月1回)、交通安全街頭キャンペーン(年2回)、車体検査と通学別集会(年3回)、交通委員会による挨拶運動(月1回)を実施する。	③ 登校時の街頭指導は毎日実施し、毎月の学校安全の日にも通学指導を実施した。3年生に対しては自動車免許取得説明会も開催した。交通キャンペーンはコロナウイルス感染のリスクを考慮して実施しなかった。		

①

R2①

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価	総合評価		
自他を大切に する心や態度を 育成	②自他を大切に する心や態度を 育成	人権教育課	<p>評価指標</p> <p>① 徳島県人権教育推進方針にしたがって人権教育を推進すると共に、さまざまな人権課題について教職員間で共通認識を持つ。</p> <p>② 生徒一人ひとりの人権意識を高める活動を推進する。</p> <p>③ 3年生対象の「人権に関する意識調査」で、人権課題に取り組む意欲を示す回答を9割以上にする。(R1年:95%, H30年:89%)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 校内教職員人権教育研修会や職員会議を通して、県人権教育推進方針に沿ったテーマを共に学び考えることで共通認識を持つことができた。</p> <p>② 「名高入権の日」校内放送や人権標語のクラス掲示、生徒会人権委員会活動を通じて推進できた。</p> <p>③ 「意欲的に取り組んだ」、「ある程度取り組んだ」を合わせて87%の回答を得ることができ、目標とした9割にはわずかに及ばなかったが概ね到達することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) 教育活動全体を通じて人権尊重の精神の涵養につとめ、本校の生徒の実態に応じた指導の充実を図ることができた。昨年度まで2年間取り組んだ県教委人権教育指定研究の成果と手法を生かして、コロナ禍の中ではあったが、人権映画鑑賞会の実施や教職員研修会等の各種取組の実践を行えた。</p>	いじめ件数は0件で生徒は落ち着いており、早期の対応と丁寧な指導ができています。また「名高入権の日」、新型コロナウイルスによる差別等による新たな人権課題に取り組み、さらなる人権教育実践につとめていきたい。また、生徒自主活動の活発化、さらなる持続的かつ普遍的活動のため、人権社会研究会を同好会から部への昇格を継続して求めていきたい。	○県教委人権教育指定研究を終えての1年目で、その成果と手法を十分に生かした取組ができたが、新型コロナウイルスによる差別等による新たな人権課題に取り組み、さらなる人権教育実践につとめていきたい。また、生徒自主活動の活発化、さらなる持続的かつ普遍的活動のため、人権社会研究会を同好会から部への昇格を継続して求めていきたい。
		人権教育課	<p>活動計画</p> <p>① 各学年で人権HR活動検討会や人権教育研修会を計画・実施するほか、校外の各種研究・研修会に参加し、機会を捉えてその報告を行う。</p> <p>② 生徒会人権委員会による人権に関する取組を活発に行う。</p> <p>③ 多様性や人権を尊重し、いじめ・差別を許さない生徒の意識や態度を育てる人権HR活動や人権映画鑑賞会・講演会等を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 人権HR活動事前検討会を各学年で必ず実施し、校内教職員人権教育研修会は2回実施した。校外研修の機会がコロナ禍でなくなったが、高特人研大会は報告できた。</p> <p>② 文化祭人権展の実施、「名高入権の日」校内放送、人権新聞発行等を通して人権啓発に取り組んだ。</p> <p>③ 人権HR活動を4回実施した。第3回は人権映画鑑賞会を、第4回は人権教育講演会を実施することで、いじめや差別を許さない人権意識や態度を育めた。</p>			
	生徒指導課 特別支援	生徒指導課 特別支援	生徒指導課 特別支援	<p>評価指標</p> <p>④ 学校いじめ防止方針に基づき未然防止に努め、いじめによる特別指導を0にする。(R1は0件)</p> <p>⑤ 生徒理解に努め、必要に応じた職員研修やケース会議が実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>④ いじめ防止指導を徹底し、いじめによる特別指導はなかった。</p> <p>⑤ 生徒の実態調査を基に、情報共有のための職員研修を行った。また、必要に応じて、教科担任会などのケース会を行った。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) いじめ防止の取組を徹底し、深刻ないじめ問題が発生することはなかった。また教育相談では、スクールカウンセラーが月2回程度来校し、生徒理解やその対応について共通理解に努め、適切な対応ができた。</p>	○次年度もいじめはどの子どもにも起こりうるという認識のもと、全教職員で未然防止に取り組みたい。また、より多くの大人が子供の悩みや相談を受け止めることができるようにするため、専門家による相談と、学校と家庭、地域が組織的に連携できるような体制を構築していきたい。
			生徒指導課 特別支援	<p>活動計画</p> <p>④ アンケートを年2回実施し、早期発見に努める。また、いじめは絶対に許さないという姿勢を全校集会等で明確にし、生徒が相談しやすい環境をつくる。</p> <p>⑤ 特別支援教育の視点で、生徒実態調査を、年1回行い、その結果を教職員研修会で情報共有する。支援が必要な生徒については、年間2回以上ケース会を行う。(R1, ケース会2回)</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>④ 本校の実態にあった年間計画を作成し、アンケート調査(年2回)や個別面談などの取組を行うことで生徒の悩みや対人関係の状況を把握し、未然防止に努めた。</p> <p>⑤ 生徒実態調査を6月に行い、7月に情報共有のための職員研修を行った。支援が必要な生徒についての保護者面談、教科担任会など2回以上行うことができた。</p>		

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価	総合評価		
自他を大切に する心や態度を 育成	②自他を大切に する心や態度を 育成	保健厚生課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B  (所見) コロナ禍により 社会だけでなく 生徒の心身の健 康も大きく変化 する中、スケー ルカウンセラー 等活用事業を希 望する生徒は今 後も増加するの ではないかと考 えられる。 また、健康診断 の事後措置につ いては、二次検 診の受診対象者 に通知を行い、 未提出者につ いては担任や保 護者と連絡を取 り合うことで全 員の内科、心電 図検査の二次検 診を完了するこ とができた。	今年度からカウ ンセラーが配置 され月2回面談 の機会が設けら れたことで、心 身の健康問題や 家庭での問題に 対しても丁寧な 対応ができてい る。次年度も、 スクールカウ ンセラーや関係機 関、保護者と連 携を図りながら 生徒の心身の健 康保持増進に努 めてほしい。	○心と体の両面 から生徒の健康 を支援していく ことが求められ ている。今後も 学校医による健 康相談やスケー ルカウンセラー 等活用事業等、 各関係機関と連 携を図りなが ら、生徒の健康 問題の解決に努 めたい。健康診 断の結果は生徒 が健康で安全に 学校生活を送る 上で、不可欠な 情報となるた め、今後も全員 受診を目標とし たい。また、内 科、結核、心電 図検査について も二次検査を含 め全員受診を目 指し、事後措置 を徹底していき たい。
			⑥ 生徒の心身の健康問題について、担任・保護者や必要に応じて専門の相談機関等と連携し健康相談活動を行う。(R1, 5件)	⑥ 心身の健康問題を抱えている生徒に対して校内で継続的支援を行った。(R2, 3件) スクールカウンセラー等活用事業の実施。(R2, 7件)			
			⑦ 毎学期1回以上学校医による健康相談を実施し、生徒の健康の保持増進に努める。(R1, 2回実施)	⑦ 生徒の心身の健康問題について専門的立場から助言を得る機会を設けた。(R2, 2回実施)			
		⑧ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診、二次検査対象者の全員受診を完了する。(R1 二次検査, 内科, 結核, 心電図全員完了)	⑧ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診、二次検査対象者の全員受診を完了することができた。				
		⑨ ほげんだよりを毎月発行する。(R1, 毎月発行) 健康や性に関する講演会を年1回以上実施する。(R1, 1回実施)	⑨ 生徒保健委員会が保健だよりを毎月発行した。(4, 5月は臨時休校のため発行できなかった。) 性教育講演会の開催は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。				
		活動計画	活動計画の実施状況				
保健厚生課	⑥ 保健室の機能を生かしながら担任、保護者と連携を図る。必要な場合はサポートセンター等専門の相談機関につなげる。	⑥ 担任、保護者、関係職員が相互に情報交換をとれるように連携に努めた。また、スクールカウンセラー配置校として月2回の勤務に合わせて面談の日程調整等を行った。	また、健康診断の事後措置については、二次検診の受診対象者に通知を行い、未提出者については担任や保護者と連絡を取り合うことで全員の内科、心電図検査の二次検診を完了することができた。				
⑦ 希望者または必要とする生徒に対して学校医による健康相談を実施する。	⑦ 心身の不調を継続的に抱えている生徒、または担任や保護者が専門的な立場からの助言が必要と判断した生徒に対して健康相談を計画、実施した。						
⑧ 健康診断の結果、未受診者や二次検査が必要な生徒に対して受診指示を周知徹底する。	⑧ 未受診者や二次検査が必要な生徒に対して個別指導をおして受診の必要性を説明した。						
⑨ ほげんだよりを通して健康への関心を高める。定期的に健康や性に関する講演会を実施する。	⑨ 生徒保健委員会が毎月の健康テーマについて情報を収集し、作成するよう計画、実施をした。性教育講演会の開催は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。	(評定) A  (所見) 生徒会だけでなく各種委員会や部活動にも広がっている。					
特別活動課	評価指標		評価指標の達成度				
⑩ 「あいさつ運動」を毎週2回以上実施する。	⑩ 「あいさつ運動」週2回実施できた。						
特別活動課	活動計画	活動計画の実施状況	(評定) A  (所見) 生徒会だけでなく各種委員会や部活動にも広がっている。				
⑩ 生徒会役員が中心となり、登校時に「あいさつ運動」を実施する。	⑩ 生徒会役員が火・金曜日の登校時に校門前で朝の「あいさつ運動」を実施した。また、生活委員会や交通委員会が月2回「あいさつ運動」を実施した。						

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画			評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標	評価指標の達成度	総合評価	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	学校関係者の意見	
社会的自立のために必要な能力や態度の育成	③社会的自立のために必要な能力や態度の育成	魅力創造課	① 進路意識を高める行事や講演会等に主体的に参加する生徒の割合を84%以上とすることを達成する。(R年度83.9%)	① 3学年では、主体的に参加した生徒の割合は、83.2%であった。他学年では、講演会等の実施ができなかったこともあり、目標の数値を達成することができなかった。	(評定) B	② 各学年での志望理由書に関する取り組みに対して、アンケートによる生徒の満足度を86%以上とすることを旨とする。(R年度85.9%)	② 3学年の満足度は、85.0%であった。進路ガイダンス等の実施ができなかった学年もあり、目標の数値には届かなかった。	(所見) 新型コロナウイルス感染症予防対策による臨時休業中に、進路について考え、学校生活全般に積極的に取り組むようになった生徒がいる一方で、目先の事をこなすことで満足している生徒もいる。	生徒の満足度が非常に高いのは、学校全体でしっかりした指導ができていいる成果である。「エシカル消費」に対する取り組みは、外部の人と接触することで自分を見つめ、将来の夢を考える良い機会となっている。魅力創造課、進路課、学年が連携して、生徒の進路意識を高めることにつなげていって欲しい。	○「総合的な探究の時間」を、自分の進路を考えるを通して、自らの現状や社会との関わりに気付かせるものと、教職員全体が理解して実施できることを目指す。そのために課として、「総合的な探究の時間」の在り方を協議し、職員会議等で前職員間での共通理解が必要である。
			② 「総合的な探究の時間」および「総合的な学習の時間」の計画において、生徒の実態に応じ、進路意識を高める行事や講演会等の内容の改善を図り、生徒が主体的に参加することができるようにする。	① 1学年では、「エシカル消費」に精通した外部講師を9回招き、身近な問題について関心を持つ意識づけを行うことができた。3学年では、1学年で学習した「エシカル消費」を基に、個人やグループの形態で探究を深め、レポートにまとめた。3学年では、3年間のまとめとして進路に関する課題研究や卒業制作を行い、主体的に取り組むことができた。						
		② 志望理由書に関する取り組みを2・3学年の年間計画に位置づける。各ホームルームでの事前指導を経て、志望理由書模試を実施し、事後指導の後、アンケートで生徒の満足度を確認する。2・3学年では、事前指導の中で講演会も実施する。	② 1学年では、「エシカル消費」に精通した外部講師を9回招き、身近な問題について関心を持つ意識づけを行うことができた。2学年では、志望理由書模試は新型コロナウイルスの関係で2月16日に延期している。3学年では、3年間のまとめとして進路に関する課題研究や卒業制作を行い、主体的に取り組むことができた。							
		魅力創造課	③ 生徒に進路情報を随時提供することができたか。	③ 進学希望、就職希望の両方に対応できるように、取捨選択しながら様々な情報の掲示や伝達を随時行った。	(評定) A	④ 最終進路先に満足する生徒の割合が90%以上、本校の進路指導に満足する生徒の割合が90%以上であったか。(R1:91%,91%)	④ 最終進路先に満足する生徒の割合が97%、進路指導に満足する生徒の割合は97%で、いずれも目標を達成した。			
	進路指導課	③ 生徒に進路情報を随時提供する。(「木鐸」年1回、職場体験やオープンキャンパス等各種案内随時)	③ 進路の手引き「木鐸」や進路ニュースの発行を通して本校独自の情報を伝えた。また、掲示や配布により様々な進路情報を提供した。	(所見) ガイダンスが開催できず生徒は情報不足気味であったので、できるだけ情報の提供については細かに行ったアンケート結果は目標が達成できた。	④ 生徒の進路相談に随時応じ、丁寧な進路指導を行う。	④ 進路指導室や就職指導室を活用して、生徒からできるだけじっくり話を聞きながら進路相談に応じた。				
	進路指導課	⑤ 生徒と担任、学年団との面談を実施し、個別指導ができたか。	⑤ 年度初めに登校できない期間があったが、生徒の不安を聞くなど丁寧な面接ができていた。1.2年担任はコース選択や進路目標設定などについて、熱心に面談した。3年担任は進路実現に向けた面接・小論指導などきめ細かい個別指導を行った。	(評定) A	⑥ 進路に関する講演会や学年集会を通して学力向上への意欲や、望ましい職業観の確立を図ることができたか。	⑥ 1月に実施した進路希望調査において、進路が未定の生徒は1、2年生とも0人であった。講演会や進路集会などを通してそれぞれの目標設定がある程度できていると考えられる。				
	3学年共通	⑤ 全生徒と各学期に1回以上進路や学習、生活面についての面談をする。	⑤ 各学期の始めやコース選択、進路希望調査のタイミングで昼休みや放課後を利用して個別面談を行った。	(所見) コース選択説明会や小論文・志望理由書講演会において、生徒が自身の目標や課題について考えを深めた。1年生は探究での講演の話が興味関心を広げることにつながったようである。	⑥ 講演会や学年集会を各学年5回以上開催する。(R1:1年生14回,2年生10回,3年生10回)	⑥ 年度当初と長期休業前、進路については各学年で集会を行った。その他、1年生は探究に向けた講演会や保健指導、2年生は修学旅行、3年生は志望理由書の書き方についても実施した。(R2:1年12回,2年10回,3年7回)				

己 評 価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策			
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価 価			
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	進路指導課	<p>評価指標</p> <p>① 定期考査期間中の平均家庭学習時間2時間以上の者が30%以上、かつゼロ時間の者がゼロであるようにする。(R1:2時間以上の者の割合は40%、ゼロ時間の者の割合は1%)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 学習時間2時間以上の者の割合は54%、学習時間ゼロ時間の者の割合は2%であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p>	<p>学校全体が、落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組んでいる。教員と生徒の距離が近く、丁寧な指導ができていたため、生徒の満足度97%につながっている。さらに、この成果が3年生の進路決定につながったと考えられる。卒業しても、学ぶ姿勢が継続できているのは理想的である。</p>	<p>少数ではあるがゼロ時間の者がいた。試験への臨み方、取り組み方の指導をHR担任をはじめすべての教職員で指導する場面を増やしたい。</p>
		進路指導課	<p>活動計画</p> <p>① 学習時間調査を実施し、生徒に対する意識づけを行い家庭学習時間ゼロをなくす。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 考査時間割発表から学習時間調査を実施し、計画的に学習ができるように学習時間表を配布し、担任の先生方がそのチェックと状況把握をして指導に役立てた。</p>	<p>(所見)</p> <p>定期考査前の学習時間調査は生徒の意識付けに役立っている。</p>		
	教務課	<p>評価指標</p> <p>② 成績不振数の割合を、前年度1・2学期と比較して、減少させる。(R1:1学期は前年比較で4名増。2学期は前年比較で7名減。)</p> <p>③ 成績不振者に対して、休業中に基礎学力補充講座を行う。出席率を100%にする。(R1:出席率は87%)</p> <p>④ 授業時数確保に努め、出張・年休の授業振り替え率を90%以上にする。(R1は97.9%)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>② 欠点取得者について、1学期は昨年度より9名増加し、2学期は昨年度より4名増加した。</p> <p>③ 2学期の基礎学力補充講座の欠席者はなかった。(出席率100%)なお、1学期については夏季休業期間短縮のため実施しなかった。</p> <p>④ 出張・年休等の早めの連絡徹底及び授業変更作業の努力により、振り替え率は98.5%であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p>	<p>(所見)</p> <p>落ち着いた雰囲気の中で授業が実施できている。1学期は新型コロナウイルス感染症対策の影響があり、例年のようなきめ細やかな指導にまでは至らなかった。1学期末からは各担任及び教科担任の指導・働きかけ等により、授業や学習に対する生徒の取り組みも改善しつつある。長期休業中に実施している欠点取得者対象の基礎学力補充講座は生徒の基礎力の養成につながっている。</p>	<p>○各教科によるルーブリックに基づいた指導の充実を図る。 ○より良い授業実施のための職員全体による授業改善や指導方法の研究を行う必要がある。</p>	
		教務課	<p>活動計画</p> <p>② 授業やホームルーム、集会等で学習意欲を喚起させるとともに、授業態度や提出物等の指導を徹底する。</p> <p>③ 夏季及び冬季の長期休業中に基礎学力補充講座をそれぞれ3日間実施し、学力の補充に努めさせる。</p> <p>④ 行事などの精選を図るとともに、自習を減らし、授業振り替えをする。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>② 各ホームルーム担任や教科担任によるきめ細やかな指導を行うとともに、継続的に進路や教務担当教員、学年主任からも授業の大切さや学ぶことの重要性等について話をした。</p> <p>③ 夏季休業中は、新型コロナウイルス感染症対策等の理由から基礎学力補充講座を実施せずに、家庭での課題に切り替えた。また、冬季休業中は実施期間を2日間に短縮して実施し、基礎学力の充実にも努めた。</p> <p>④ 先生方の出張・年休の連絡を早めにしていただき、授業の振り替えに努めた。</p>			

己 評 価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策				
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価 指標の達成度	学校関係者の意見			
基礎学力の向上を目指す	④ 基礎的・基本的な学力の育成	国語科	<p>評価指標</p> <p>⑤ 漢字や語彙の定着を図るため週末課題にして提出させる。提出率を100%にする。</p> <p>⑥ 授業評価アンケートの「教科に関する興味・関心」「充実度」がある生徒の割合95%以上を目指す。(R1:95%)</p> <p>⑦ 授業評価アンケートの「宿題をしている」生徒の割合を80%以上にする。(R1:80%)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑦ 週末課題の提出率は学期末ごとに集計し、1学期末は100%、2学期末は94%と目標を達成できなかった。</p> <p>⑧ 「教科に関する興味・関心がある」生徒の割合は生徒の割合の90%であった。目標を達成できなかった。</p> <p>⑨ 「宿題をしている」生徒の割合は生徒の割合の80%以上であった。目標を達成できた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 基礎学力の定着と、思考力を深めることを柱にして単元を計画している。語彙をただ暗記するのではなく、意味を持たせて関連させる習慣が基礎学力の定着につながるのではないかと考え、今年度は小テストを実施しなかった。電子黒板の導入により生徒の興味関心、思考力を高めたいと考えている。</p>	<p>コロナ渦の中であっても、臨時休校中にZoomを利用した授業やHRなど、生徒の学びを継続する取り組みが実施できている。2学期から設置された電子黒板を利用した授業をほとんどの先生が実施しているので、来年度からのタブレットを利用した授業にも大いに期待ができる。</p>		
		国語科	<p>活動計画</p> <p>⑤ 授業と家庭学習を連動させる。語彙力の定着と社会に目をむける意識づけをする。</p> <p>⑥ 協働学習や発表により達成感や充実感を味わわせる。便覧・資料等を活用してより深く興味・関心を引き起こし、積極的な授業参加ができるよう配慮していく。</p> <p>⑦ 授業の目標を明確にし、授業の内容にあったプリントや週末課題を配付し、家庭学習の習慣を身につけさせる。プリントや週末課題はファイルし、提出させて評価する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑦ 週末課題の内容を定期テストに出題し、繰り返し基礎学力の定着を図った。新聞コラムの書き写し、徳島新聞社主催の新聞感想文コンクールに1、2年生学年全体で応募した。</p> <p>⑧ コロナの影響により、協働学習する機会が減った。個別の活動になったが、単元を貫く1つの問い(正解が1つではない)を立てて、思考する時間を増やした。電子黒板とデジタル教科書の導入により、資料や便覧の提示が鮮明にできた。</p> <p>⑨ 電子黒板の活用と授業プリントの工夫、授業目標の明確化によって、より深い理解をめざした。学期ごとにファイルを確認し、内容の振り返りを促した。</p>				
		地歴・公民科	<p>評価指標</p> <p>⑧ 授業評価の「興味・関心」「充実度」で、8割以上の生徒が満足することで、基礎的・基本的な学力の育成をはかる。(R1:84%)</p> <p>⑨ 基礎的・基本的な学力を身につけさせるために、定期的にノート、プリント等を提出させる。提出率を100%にする。(R1:100%)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑧ 「興味・関心」「充実度」について、85%の生徒が満足していた。</p> <p>⑨ 定期テストごとのノート、プリント提出を定着させ、提出率100%を達成した。</p>			<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 時事問題や対話的な学びを取り入れることで、現代社会における諸課題についても興味・関心を高めることができた。こうした取り組みは、生徒の主権者意識の向上にも寄与していると考えている。</p>	<p>○授業内容を深め、興味・関心を高められるよう、時事問題、対話的な学び、映像資料などを取り入れているが、授業の進度が遅れることもあった。今後は、教材の精選に努めながら、さらに生徒の関心を高められるよう取り組みたい。</p>
		地歴・公民科	<p>活動計画</p> <p>⑧ 毎時間、時事問題や対話的な学びを取り入れ、生徒の興味・関心を高めるとともに、能動的に学ぶようとする姿勢をはぐむ。</p> <p>⑨ 基礎基本の定着をはかるため、定期テストごとにノートを提出させ、未提出の者には提出を促す。ノートを効率よくとれるよう板書計画を吟味する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑧ 毎時間、授業内容に即した「時事問題」や、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」を取り入れるようにし、生徒の関心や理解度が高まるよう工夫した。</p> <p>⑨ 基礎基本の定着のため、提出物についての指導のほか、教員間で情報交換をし、電子黒板を活用した教材開発にも努めている。その成果もあり、ほとんどの科目で平均点は60点以上となっている。</p>				

己 評 価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評 価	
				学校関係者の意見	
基礎学力の向上を目指す	④基礎的・基本的な学力の育成	数学科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B  (所見) 小テストへの取り組み方や意欲のばらつきが個人間で見られる。低得点の者が固定してしまっている。課題への取り組み方を向上させる指導を強化したい。できるという体験を増やしたい。
			⑩ 1, 2年生の授業における小テストの正答率を70%以上にする。(今年度から開始)	⑩ 1年生は76%, 2年生は64%で, 1年生は目標を達成できたが2年生では達成できなかった。	
		⑪ 学年全員が履修する数学Iの授業評価アンケートにおいて, 授業に興味・関心を持った生徒の割合を80%以上にする。(R1:82%)	⑪ 興味・関心を持った生徒の割合は生徒全員が履修する1年生数学Iにおいて56%で目標を大きく下回った。		
		活動計画	活動計画の実施状況		
		⑩ 週に1度の予定で実施する。課題を事前に配布し, 家庭で学習してから小テストを受ける流れを確立させることにより, 基礎学力の向上につなげる。	⑩ 再テストの実施や不合格者への指導など, 事後の指導も含めて1年間を通して実施した。		
		⑪ 毎時の目標を明確に示すとともに発問を多くしたり, 協働学習を取り入れるなど, 全員が授業に積極的に取り組んでいる態勢をつくる。	⑪ グループ学習などの協働学習の形をとることができなかったため, 発問を多くしたり, 電子黒板で動きのあるものを提示したりと, 生徒の学習に対する意欲が少しでも高まるように工夫した。		
	理科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B  (所見) 家庭学習習慣のない生徒, ノートをとらない生徒が増加している中, 科学分野にどのような興味を持ち, 学習につなげるかが課題である。気象災害や環境問題, 病気などの問題については関心がないわけではないので, 教科の内容に即したプリントを作成し, より興味関心を持てるようにする工夫が必要である。	
		⑫ ノート, プリント, 課題, テスト直し等の提出・確認を細かく行い, その提出率を95%以上にする。(R01:97%)	⑫ 期間内に提出することを重点的に指導し, 85%以上の提出率になった。最終的にはほぼ全ての生徒の提出ができた。		
		⑬ 社会で取り上げられる理科関連のニュースを授業で取り上げることで, 学習内容が現実社会と密接に関連していることを理解させ, 学習意欲の向上に繋げる。	⑬ コロナウイルスやマイクロプラスチック, 遺伝子治療など時事問題的な科学的課題について取り上げ, 生活と関連付く科学についての学習意欲が向上する生徒が見られた。		
	理科	活動計画	活動計画の実施状況		
		⑭ 生徒がやる気を持って試験に臨み, 満足できる得点がとれるためのサポートを, 必要に応じて考査前に行う。また, 年度末の欠点取得者をゼロにする。(R01:1%)	⑭ テスト範囲の早期連絡や, 自主的に残り学習する生徒や部活動での学習会での指導などを行うことで年度末における欠点取得者は2%程度になった。		
		⑫ 一般用語, 一般常識の理解定着を目指すためのきめ細かい指導と解説を行う。必要であれば小テストを行い定着率を確認する。ノートを効率よくとれるよう板書計画を吟味し, 生徒のノートの定期的な提出と確認を行う。また, 検印するなど後から確認できるようにする。	⑫ 課題やノートの提出, 検印をこまめに行い, 家庭での学習時間確保と学習習慣の定着はある程度できたと考える。ノートをとる習慣や提出物を守れない生徒が増えており, 丁寧な指導が必要であった。継続的な指導を行うことにより提出期限内での提出が85%以上になった。		
⑬ ニュース・新聞等の記事から授業内容に即する内容でプリント等を作成する。記事中の単語, 内容の解説を行い, 基礎的な科学的知識の習得に努める。月2回程度の取り組みを目指す。	⑬ 新聞やネット記事を積極的に活用し, 目標回数は行っている。教科書と新聞記事の内容の間を丁寧に説明し, 学習内容が将来の生活に役立つ事について理解させることができた。				
⑭ 生徒が試験勉強に取り組みややすいよう, 出題範囲と出題傾向を適切に伝え, 効率良い勉強方法を伝授するとともに, 学習努力が得点に繋がる出題を心掛ける。また, 必要に応じてテスト前に補習等も行う。	⑭ 大切な内容については小テストを実施するなど, 学習内容の重点目標をしっかりと理解させることができた。学習習慣のない生徒へのさらなる取り組みが今後の課題である。				



己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見
基礎学力の向上を目指す	④ 基礎的・基本的な学力の育成	英語科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価  (評定) B
			⑮ 1年生の各学期末で80点以上(評定5)の生徒を30人以上にする。(R1:1学期32名,2学期24名)	⑮ 全クラス実施のコミュニケーション英語で,80点以上の生徒は,1学期41名,2学期17名で,2学期に目標を達成できなかった。	
			⑯ 2年生の各学期末で80点以上(評定5)の生徒を30人以上にする。(R1:1学期47名,2学期28名)	⑯ 全クラス実施のコミュニケーション英語で,80点以上の生徒は,1学期33名,2学期28名で,2学期に目標を達成できなかった。	
		⑰ 3年生の1,2学期末で80点以上(評定5)の生徒を40人以上にする。(R1:1学期79名,2学期62名)	⑰ 全クラス実施のコミュニケーション英語で,80点以上の生徒は,1学期66名,2学期29名で,2学期に目標を達成できなかった。		
		英語科	活動計画	活動計画の実施状況	
		⑮ ・授業でポイントをよく理解させる。 ・繰り返し暗唱・復習することを奨励する。 ・小テストの結果を集計・追跡し,評価の一部に加味するとともに個人の指導に生かす。 ・「English for Tomorrow」(中学校復習教材)を週末課題とし,計画的に取り組ませる。また,自主学習を促す。	⑮ 「English for Tomorrow」を週末課題とし,年間を通して計画的に取り組ませた。また,課題テストの範囲とすることで,目的を持って取り組むことができた。結果は評価の一部に加味し,成績不振の生徒は個人指導を行った。ペアやグループ活動などは,密を避けるという観点からほとんど行うことができなかった。		
⑯ ・授業でポイントをよく理解させる。 ・単語テストを実施し,語彙力をつける。 ・テスト対策プリントで,考査前にポイントを復習させる。	⑯ 電子黒板を最大限に利用し,各パートごとに重要ポイントや重要語句の整理をした上で,単語テストを含め繰り返しチェックを行った。考査前にはテスト対策プリントで学習のポイントを復習した。習熟度の高いクラスではリスニングや文法事項の確認テスト,大学入試を意識した単語集も取り入れた。				
⑰ ・授業でポイントをよく理解させる。 ・繰り返し暗唱・復習することを奨励する。 ・小テストの結果を集計・追跡し,評価の一部に加味するとともに個人の指導に生かす。	⑰ 3年生の授業では,重要なポイントの解説や単語・熟語の小テストなど,基礎・基本の充実を図り,結果は評価の一部に加味した。ペアやグループ活動などは,密を避けるという観点から必要最小限にとどめ,可能な範囲で行った。				

己 評 価		学校関係者評価					
重点課題	重点目標	主担当	学校関係者の意見				
		評価指標と活動計画	次年度への課題と今後の改善方策				
		評価指標	評価				
		評価指標の達成度	総合評価				
基礎学力の向上を目指す	④ 基礎的・基本的な学力の育成	総務課図書	⑱ 全校読書会や読み聞かせの会などの図書関連行事を実施する。	⑱ 全校読書会、読み聞かせの会ともに新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。	<p>(評定) B</p> <p>(所見) 毎年行ってきた全校読書会（ビブリオバトル）や読み聞かせの会が中止になったのは非常に残念であった。臨時休業中は自宅で過ごす時間が増えたため、家庭での読書時間の増加を期待したが、昨年度とあまり変化がなかった。夏期休業の期間が短くなった影響もあり、8月の図書館の利用者は大幅に増加している。また、たくさん本を借りている生徒やクラスがある一方、まったく図書館を利用していない生徒も多い。</p>	<p>本年度も継続して朝読を毎日実施している。学級文庫の本の新規購入や出張図書館の利用など、読書の習慣を身につける指導が徹底されているようだ。読書週間の格差があるようだが、来年度は格差を埋める努力をして欲しい。</p>	<p>○教科の関連本を購入し、蔵書の充実を図ることができたため、入館者数増加にも繋がった。しかしながら、授業での利用回数増加による影響が大きく、自主的な利用者の増加を図る工夫を考えていきたい。出張図書館の利用も定着してきたが、十分な貸し出し手続きをせずに本を借りる生徒もおり、今後は図書館利用のマナー向上に努めていきたい。</p>
			⑲ 家庭での平均読書時間10分以上の生徒を30%以上にする。	⑲ 家庭での平均読書時間10分以上の生徒は48%であった。（昨年度47%）			
			⑳ 図書館の一日平均入館者数を10人以上にする。	⑳ 4月～12月の図書館の一日平均入館者数は19.4人であった。			
			㉑ 一日平均貸出冊数を5冊以上にする。	㉑ 4月～12月の一日平均貸出冊数は6.74冊であった。			
			㉒ 名高ライブラリーを毎月発行する。	㉒ 臨時休業中を含め、名高ライブラリーを毎月発行することができた。			
			活動計画	活動計画の実施状況			
		⑱ 全校読書会や読み聞かせの会の実施案内を教室に掲示し、積極的な参加を促す。参加した生徒が次回も参加したいと思えるような企画にする。	⑱ 全校での図書館関連行事は中止となったが、クラス読書会を各学年1回ずつ行った。校外での読み聞かせの会の案内をし、3年生の希望者が参加することができた。				
		⑲ 図書館や学級文庫にリクエスト本を購入し、蔵書の充実を図り、「朝の読書」の取り組みを十分に生かすことで、家庭での読書時間を増やしていく。	⑲ 本年度は各クラスより希望を募り、学級文庫の本を一括購入した。昨年度まではクラス毎に、購入時期が違っていたが、本年度は、すべてのクラスに同時にリクエスト本を購入することができた。				
		⑳ 図書室前の掲示板でおすすめ本を紹介し、図書館の本をテーマ別に紹介して、入館者数の増加を図る。	⑳ 掲示板や出張図書館で新刊本の紹介をした。図書館入館者数は、昨年度より増加した。特に6月から8月の利用者が昨年度の2倍になっている。				
		㉑ 教科・科目と連携して推薦本を紹介し、さまざまなジャンルの本に興味・関心を持たせ、貸出冊数の増加につなげていく。	㉑ 各教科に関連した本をピックアップしたり、県立図書館の協力貸し出しで実際に内容を確認、幅広いジャンルの本を購入した。				
		㉒ 名高ライブラリーを教室掲示するとともに、HPにも掲載する。	㉒ 年度当初の臨時休業中は、家庭での読書を推進するために、名高ライブラリーをHPに掲載した。毎月発行することで、定期的に新着図書を紹介するとともに、図書館入り口に新着本コーナーを作り、借りやすい雰囲気作りに努めた。				

己 評 価		学校関係者評価			次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
活力ある部活動と学校をリードする生徒の育成	⑤活力ある部活動と学校をリードする生徒の育成	特別活動課	評価指標 ① 自主的にボランティア活動を行った生徒が、全校生徒の60%以上だったか。(R1 52.8%)	評価指標の達成度 ① とくしまマラソン、名高パトロール、地域の保育園の行事、石井町ボランティアフェスティバル、施設等への演奏会・作品展示など例年行っているボランティア活動が新型コロナウイルス流行のため、全て中止となった。歳末助け合い運動の募金活動のみ行った。	総合評価 (評定) B	今年はボランティア活動はできなかったが、Zoom等のオンライン指導で臨時休校中も指導を行った結果、部活動では、書道部や野球部の素晴らしい成果につながった。これらの部の成果が他の部の刺激となり、学校の活動も活発になっているようである。次年度もさらなる飛躍を期待する。
		特別活動課	活動計画 ① 全校生に趣旨の徹底をはかるとともに自発的などりくみを推進する。	活動計画の実施状況 ① 様々なボランティアの機会が無くなってしまったが、ホームルームや掲示、放送などで歳末助け合い運動の趣旨を発信した。また文化祭の模擬店売り上げからも寄付したことで合計8744円の寄付をすることが出来た。	(所見) コロナウイルス感染拡大を防ぐためには人が集まることや接触する機会を減らすことが第一だったので今年度については仕方がなかった。	
		芸術科	評価指標 ② 美術や書道作品の校内展示を通して、生徒の情操教育や豊かな感性の伸長を図る。	評価指標の達成度 ② 校内に美術・書道作品や学習活動パネルを展示をすることにより、芸術科の日頃の活動の様子を来校者や生徒たちに発信できた。	総合評価 (評定) A	
		芸術科	活動計画 ② 県内唯一の芸術科を持つ学校としてその有利性を発揮し、校内に美術・書道の常設展示を行い、学期に1回以上展示替えを実施する。(R1 美術・書道合わせて23回)	活動計画の実施状況 ② 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で多くの展覧会が中止となり、作品発表の機会が減少した。常設展示の作品替えも美術・書道合わせて4回であった。部活動においては、団体に全国優勝や、個人で全国レベルの活躍をした生徒が増加するなど充実した活動ができた。	(所見) コロナ禍の状況下でも芸術科の生徒の持つ豊かな感性や創造力を最大限に発信できるよう心掛けた。	
		特別活動課	評価指標 ③ 全国大会に2名以上、四国大会に10名以上の出場を目標とする。(R1.全国13名、四国30名) ④ 高文祭では全国大会に3部以上、各種大会・コンクールについては全国規模の入賞・入選数70を目標とする。(R1.高文祭4部門、入選76)	評価指標の達成度 ③ 新型コロナウイルス感染症拡大のため、各種大会が実施されず、統計調査ができなかった。県総体の代替大会では相撲部、弓道部、陸上部が優秀な成績を残し、野球部が秋季大会でベスト4に進出するなど活躍を見せた。 ④ 新型コロナウイルス感染症拡大のため、各種大会・コンクールが実施されず、統計調査ができなかった。高文祭については書道部、美術部、箏曲部が全総文に参加した。	総合評価 (評定) B	
		特別活動課	活動計画 ③ 四国総体、全国総体が中止という状況だが、体育部の活動者数を増やし、大会参加や活動の機会を増し、粘り強く指導する。 ④ 文化部の活動者数を増やし、大会参加や活動の機会を有効活用し、粘り強く指導する。	活動計画の実施状況 ③ 体育部の入部率は前年度と変わらず33%であった。 ④ 多くの生徒が県総文祭に参加した。箏曲部、書道部、美術部の全国総文祭参加など、web開催という新しい形での参加形態だったが、それぞれ工夫と努力を重ね、日頃の活動の成果を見せた。	(所見) 体育部・文化部ともに、活動内容などを発信し、活性化、成績向上を目指したい。	

己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
			評価指標	評価指標の達成度	総合評価	
活力ある部活動と学校をリードする生徒の育成	⑤活力ある部活動と学校をリードする生徒の育成	国際交流課 英語科	⑤ 外国の文化・慣習等に興味・関心を持ち、国際交流への意識を高めた生徒の割合を60%以上にする。(R1:71.0%)	⑤ 全校生徒対象のアンケートで、76%の生徒が国際交流への意識を高めたと答え、目標を達成できた。	B  (所見)新型コロナウイルスの影響で、昨年3月のドイツ研修旅行の中止に始まり、海外との直接的な交流事業や国際理解講演会を実施することができなかった。しかし、日々の授業の中で、ALTとの交流を深めることで、国際交流への意識を高めたと答えた生徒の割合は昨年より上昇した。また、緊急事態宣言中は、ALTによるオンライン授業やZoomによる個人指導の機会も設けた。	ドイツの姉妹校交流の機会が持てなかったようだが、ALTを中心とした日常的な取り組みに代えるなど工夫をしているようだ。来年度はオンラインによる交流を行うなど、生徒の国際交流への意識向上を継続する努力をしてほしい。  ○次年度は、ALTを中心とした日常的な取り組みを積み重ねるとともに、オンラインによる姉妹校交流や国際交流の機会を模索するつもりである。また、新型コロナの収束状況によっては、姉妹校交流の再開についても検討していく予定である。
			⑥ 生徒の国際理解を深めるために、全校生徒対象の講演会等を1回以上開催する。(R1:3回)	⑥ 全校生徒対象の講演会等を開催しなかったため、目標は達成できなかった。		
			⑦ 海外留学やホームステイ、国内での英語を使った交流体験など、国際交流事業への情報を最大限提供する。(参考：R1国際交流への参加者18名)	⑦ 新型コロナウイルスの影響で、今年度は国際交流事業がほとんど中止となり、海外との直接的な交流はできなかった。オンラインでの国際交流についても情報を提供したが、参加は見られず、目標は達成できなかった。		
	国際交流課 英語科	評価計画	活動計画の実施状況			
	⑤ ALTの授業を全クラス最低2週間に1回は行う。	⑤ 学期ごとにティームティーチングの計画を立て、急な出張の際にも振替を行った。特別時間割を除くと目標は達成された。				
	⑥ 外国の方や海外経験の豊富な日本人を招き講演会を実施する。	⑥ 新型コロナウイルスの影響で、外国の方や海外経験の豊富な日本人を招くことができなかった。				
⑦ 国際交流の募集案内を全校生徒に積極的に行うとともに、生徒の進路に応じて個別に相談を行う。	⑦ 国際交流の募集案内はほとんどなかった。外国語や国際の分野に進学を希望している生徒には個別に働きかけたり、英検対策の放課後勉強会を3講座開いた。					

己 評 価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策		
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	学校関係者の意見		
			評 価			
			評価指標の達成度	総合評価		
			評価指標	(評価)		
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	総務課	① 保護者と生徒、教職員が協力して校外清掃奉仕活動や、校内美化活動を行う。	B	本年度「名高パトロール」等のボランティア活動は実施できなかったが、名高祭や定期演奏会など新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの行事や研修等が中止となった。しかし、ご理解・ご協力をいただき、PTA・同窓会ともに、役員の方を中心に制約がある中でも連携しながら活動に取り組んでいただけた。	
			② 文化祭・体育祭に、PTA役員を中心として多くの保護者が参加し、教職員と連携して生徒の諸活動を支える。			① 今年度は学校周辺道路の拡幅工事のため、清掃奉仕活動を中止した。
			③ 校外における各種研修、大学訪問研修に多くの保護者が参加し、諸問題について理解を深める。			② 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、今年度は学校祭が非公開での実施となり、PTA役員・保護者参加の行事は中止した。
			④ 全会員にPTAの活動についての報告・広報を年間5回以上する。			③ PTA会長・副会長を中心に、県教育委員会や県高等学校PTA連合会主催、生徒生活指導連絡協議会等関連の研修会に参加し、理解を深めることができた。
			⑤ 藤花同窓会と学校が連携して充実した同窓会活動を実施する。藤花同窓会の活動について、在校生や地域に周知・広報し、総会・懇親会に多くの会員が参加する。(R元年度総会27名・懇親会97名参加)			④ 全会員へのPTA活動の報告は、役員会決議の書面報告と校誌により行った。活動の広報は、PTA役員の方に随時行った。
	総務課	活動計画	活動計画の実施状況	⑤ 藤花同窓会の役員会・総会等で、在校生の諸活動について案内・報告をした。また、定期演奏会・卒業演奏会・名高展へのスタンド花、全国大会の出場生徒に激励金をいただいた。(第1回役員会22名、R2年度総会：県内20名・県外書面表決13名、第2回役員会23名参加)	本年度「名高パトロール」等のボランティア活動は実施できなかったが、名高祭や定期演奏会など新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの行事や研修等が中止となった。しかし、ご理解・ご協力をいただき、PTA・同窓会ともに、役員の方を中心に制約がある中でも連携しながら活動に取り組んでいただけた。	
		① 石井駅周辺の通学路、及び校内の美化活動への参加を呼びかける。(R元年度参加者3名)	① 今年度は学校周辺道路の拡幅工事のため、清掃奉仕活動は中止した。			
		② 文化祭での模擬店出店、体育祭での麦茶・スポーツドリンク提供について、全保護者に参加を呼びかける。(R元年度模擬店・麦茶提供延べ53名参加)	② 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、今年度は学校祭が非公開で実施となり、PTA役員・保護者参加の行事は中止した。			
		③ 徳島県高等学校PTA連合会、生徒生活指導連絡協議会等の総会・研修会等への参加について、適宜ご案内する。また、大学訪問を実施し、進路についての理解を深める。(R元年度校外研修8名参加、大学訪問は参加希望者少数のため中止。)	③ 徳島県高等学校PTA連合会、生徒生活指導連絡協議会等の総会・研修会等への参加について、適宜ご案内した。また、大学訪問は、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大により、中止した。			
		④ PTAに関する事業報告・事業計画は、5月の総会中止に伴い、4月の第1回役員会で提案・決議するとともに、総会の決議に代え、全会員に書面にて報告する。また、ホームページに、年間の行事や活動への参加案内、及び活動の様子や報告を掲載する。	④ PTA会則により、4月の第1回役員会での決議を総会の決議に代え、全会員に書面にて配付して報告した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため恒例の行事等が行われなかったことから、来年度スムーズに動き出せるよう、1月にPTA役員引き継ぎの会を開き、役員間で共有し、必要な申し送りを行った。			
	⑤ 10月の藤花同窓会総会・懇親会では、役員及び卒業30周年の会員を中心に参加を広く呼びかける。諸活動の円滑な実施のため、役員会を年3回開催する。卒業式前日に同窓会入会式を実施して、各ホームルーム理事に委嘱状を手渡し、同窓会会員となる自覚を促す。	⑤ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、今年度は懇親会を中止、卒業30周年の同窓会を1年延期し、10月の総会を本校にて県内会員のみで開催し20名(県外会員13名は書面)の参加を得た。また、全国大会への激励金や、定期及び卒業演奏会・名高展へのご支援をいただいた。同窓会入会に際しては、卒業式当日に12名のクラス理事に委嘱状を手渡し、同窓会入会の自覚を促した。				

己 評 価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策		
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評 価		
				学校関係者の意見		
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	教務課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A	ループブック集の作成や授業改善の一環として「パフォーマンス課題」を設定した研究授業を行うなど教職員研修が充実している。来年度以降は地域からの様々な要望にも応えてほしい。広報活動もしっかりして欲しい。
			⑥ 「入学案内」について、本校教育の内容をわかりやすくまとめ、説明会等の資料として積極的に活用する。	⑥ 写真や記述内容の見直しを行い作成した。各中学校での説明会、本校実施のオープンスクールや各種説明会等、あらゆる機会を通じて配付し、本校のPRに役立てた。		
		⑦ 体験入学等の参加生徒や保護者に、本校の教育内容や特色をわかりやすく説明する。R元体験入学アンケート結果(よい以上生徒92%, 教員・保護者84%)を上昇させる。	⑦ 今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、夏季休業中の体験入学は中止した。代わりに秋にオープンスクールを実施し、授業の公開を行うとともに、中学校教員対象に説明会を行い好評を博した。			
		教務課	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 生徒と共に作成した新しいPR動画や「入学案内」及びHPを積極的に活用し、本校の特色や魅力をあらゆる機会を通して発信していった。	
			⑥ 「入学案内」の構成や情報内容を改良するとともに、最新の情報に更新していく。また、依頼のある中学校には配布する。	⑥ 写真の見直しを行うとともに、在校生や卒業生の生の声をさらに充実させた。各中学校での説明会意外にも、依頼のあったすべての中学校に配付した。		
		⑦ 学校説明会、体験入学、HP等を通じて、本校教育の特色など本校に関する情報を提供し、中学生に進路選択に活用してもらおう。体験入学の際にアンケートを実施する。	⑦ 普通科・芸術科共に新しくPR動画を手作りで作成した。中学校での学校説明会や本校のオープンスクール等の機会に、「入学案内」やPR動画などを用いて本校の特徴や魅力を積極的に紹介した。HPにおいても様々な情報を発信していった。体験入学は中止した。			
	教務課 教育情報	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B		
		⑧ 学校行事や部活動等の様々な取組みをホームページで頻度多く掲載する。月に12回以上の更新を行う。(昨年度最少更新回数8回)	⑧ コロナ禍による休校期間が長く、学校行事の精選などで目標を達成できなかったが、伝えるべき内容については掲載できた。(最少更新回数4回、未達成月は4ヶ月)			
	教務課 教育情報	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 学校生活や校外活動の記録をしっかりと撮影し、web状にあげる習慣を共通認識として持てるようにする必要がある。		
		⑧ 各課に更新作業の出来る教員を増やし、学校行事や部活動の取り組み等を紹介する。	⑧ 各課、部活動で更新作業ができるように、情報科員が個々に対応を行った。部活動の更新については更なる研修が必要である。			
	魅力創造課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A		
			⑨ 「教科ループブック」を作成し、本校の教育実践をわかりやすくまとめ、在校生、入学希望者やその保護者に配布し、周知する。		⑨ 「教科ループブック集」が完成し、校長先生より全校生徒に配布周知していただいた。中学校へは学校説明会等で配布、HPにも掲載し、周知できた。高大接続やあわ教育発表会において、動画配信による本校の取り組みを発表し、県内の教職員に周知した。	
⑩ オープンスクールの参加生徒や保護者に、本校の教育実践をわかりやすく説明する。		⑩ 10月10日にオープンスクールを行い、コロナ禍に関わらず、中学校教員14名、中学生105名の参加があった。				
魅力創造課	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) コロナ禍でイレギュラーなことが多々ある中、「教科ループブック」の作成、パフォーマンス課題を用いた授業の研究等、各教科において、積極的に取り組んでいただいたおかげで、順調に進んでいる。			
	⑨ 「教科ループブック」の構成や内容を見直すとともに、修正する。	⑨ パフォーマンス課題・評価を用いた授業デザインの研究のため、「教科ループブック」の見直しは十分ではなかったが、パフォーマンス課題を評価するループブックの作成を研究することができた。				
⑩ オープンスクール、HP等を通じて、授業(パフォーマンス課題を取り入れたもの)に関する情報を提供し、中学生に参観してもらおう。	⑩ 2月17日にパフォーマンス課題を取り入れた研究授業を行い、公民、書道の授業をオンデマンド配信による動画配信で、県教育委員会、県立学校、中学校の教職員に公開した。					

己 評 価		学校関係者評価		次年度への課題と				
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価 価	学校関係者の意見	今後の改善方策		
地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	⑥地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	芸術科	評価指標	⑪ 展示会・音楽会等の広報活動（ホームページ・ポスター・新聞）を迅速に行い、在校生や多くの観客を展示会・演奏会に動員する。	⑪ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、例年同様の広報活動はできなかった。音楽では観客制限をかけた中での定期演奏会を実施した。美術・書道においては、県内各地で開催していた巡回展は中止となったが、名高展（あわぎんホール）は開催できた。	総合評価 (評定) B  (所見) 本年度は芸術科の行事開催にあたり、新しい様式での開催方法を模索した一年であった。「芸術科広報動画」制作においては、芸術科がひとつとなり各コースの魅力を発信できた。	本年度実施できなかった中学生体験入学は、オープンスクールの実施やPR動画の配信に代えるなど新しい形での広報活動を行う努力がみられた。活動や成果がテレビ報道されたり新聞に掲載されたり等数多くあった。来年度も大いに期待したい。	○地域社会との連携をさらに深め、芸術科をより身近に感じてもらいたい。また、中学生対象の行事の充実を図りたい。
			⑫ 県内唯一の芸術科を有する学校として、地域社会と連携し生徒の技術力をいかした芸術・文化の発信に寄与する。	⑫ 中学生や地域社会に向けた「芸術科広報動画」を作成しホームページに掲載した。「とくしまご当地ピアノ作成プロジェクト」では、徳島や地域を盛り上げる企画に美術・書道コースの生徒が参加した。				
	芸術科	活動計画	⑪ 地域社会での文化祭、展示会、文化行事などに年間3回以上参加する。	⑬ 例年のような積極的な広報活動はできなかったが、ホームページやポスター等で展示会の開催を発信した。地域における文化行事も本年度は中止となった。	総合評価 (評定) B  (所見) 運動部員がキャップをかぶり、挨拶運動や学校周辺のランニングを行いながら名高パトロールをするなど、地域の安全に貢献することができた。コロナウイルス感染拡大を受けて、従来どおりの活動はできなかったが、生徒に社会の一員である自覚を育てるとともに、地元から信頼される学校となるためにも活動を継続・発展させていきたい。	「名高パトロール隊」や交通安全街頭キャンペーン等実施できなかったが、校門前での挨拶運動を充実させるなど努力のあが見られた。	○県内でも名西高校独自の取組ともいえる名高パトロール隊の活動をさらに充実させ、地域から信頼される学校にしていきたい。 ○30年継続して作成されている「無事カエル」の意義を浸透させ、製作に対しての意識を向上させたい。	
		⑫ 地域社会と連携し、校内外で展示会・演奏会を年間3回以上実施する。オープンスクールで芸術科部活動見学会を実施する。	⑭ 校外での演奏会や展示会を7回実施した。オープンスクール（10月）では43名、芸術科進学説明会（11月）では80名の参加があり、芸術科の魅力を発信できた。					
	生徒指導課	評価指標	⑬ 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して地域の安全のため、パトロールや挨拶運動、美化活動を年30回以上実施する。（R1は32回）	⑬ コロナウイルス感染のリスクを考慮して再編式はできなかったが、全ての運動部員と生徒会役員が「名高パトロール隊」に所属し、挨拶運動や町内のパトロールなど35回、意欲的に活動した。	総合評価 (評定) B  (所見) 運動部員がキャップをかぶり、挨拶運動や学校周辺のランニングを行いながら名高パトロールをするなど、地域の安全に貢献することができた。コロナウイルス感染拡大を受けて、従来どおりの活動はできなかったが、生徒に社会の一員である自覚を育てるとともに、地元から信頼される学校となるためにも活動を継続・発展させていきたい。	「名高パトロール隊」や交通安全街頭キャンペーン等実施できなかったが、校門前での挨拶運動を充実させるなど努力のあが見られた。	○県内でも名西高校独自の取組ともいえる名高パトロール隊の活動をさらに充実させ、地域から信頼される学校にしていきたい。 ○30年継続して作成されている「無事カエル」の意義を浸透させ、製作に対しての意識を向上させたい。	
	生徒指導課 家庭クラブ	⑭ 交通安全キャンペーンを年2回以上実施し、交通マナーの向上と地域の交通安全に貢献する。（R1は2回）	⑭ 春と秋の全国交通安全運動期間に徳島名西署と連携して、街頭キャンペーンを実施する予定であったが、コロナウイルス感染のリスクを考慮して実施しなかった。					
	生徒指導課	活動計画	⑬ 運動部員を中心とした「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して、清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動を適宜実施する。	⑬ 部活動時のパトロール、校門前での挨拶運動など様々な取組を実施した。				
	生徒指導課 家庭クラブ	⑭ 徳島名西署と連携を図り、交通安全委員会がキャンペーンを実施する。また秋の交通安全キャンペーンでは学校家庭クラブが製作した「無事カエル」のマスコットを配布する。	⑭ 徳島名西署や交通安全協会と連携を図り、秋の交通安全運動キャンペーンで家庭クラブが手作りで作成した「無事カエル」のマスコット人形を交通安全啓発のパンフレットと一緒に配布する予定であったが、コロナウイルス感染のリスクを考慮して実施しなかった。					

己 評 価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策		
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
文化芸術活動における地域への積極的な創造発信	⑦文化芸術活動における地域への積極的な創造発信	教務課 教育情報	評価指標	評価指標の達成度	総合評価  (評定) B	コロナ禍で行事や活動の開始が遅れることになり、異校種間の交流もできなかった。芸術科PR動画の作成や地域からの要望に応えての活動、全国大会をweb上で発表するなど、今年一年で発表の仕方が大きく変わった。生徒もその要望に対応できている。
			① 各行事の結果等については、実施日から3日以内の更新を心掛ける。生徒の活動の様子等の紹介を月3回程度を目標に更新する。(令和元年度最少月更新数1回)	① 3日以内の掲載についてはおおむね達成できたが、日々の生徒の活動の様子についてはまだ回数が少ない。担当者を決め、更新回数を増やす工夫が必要である。		
		教務課 教育情報	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 記録はとれているので、誰がweb上にあげるかを明確にする必要がある。	
			① 行事の記録を確実にし、タイムラグなく地域に発信を行う。そのために情報発信に関する研修を行う。	① 行事記録の担当が責任を持って撮影し、WEB上に記事を掲載できるように更なる研修を行う必要がある。		
		芸術科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価  (評定) A	
			② リーディングハイスクールの取り組みを通して、音楽・美術・書道の技術力を活かした活動を積極的に校外・地域へ発信する。異校種間交流を音楽・美術・書道で年1回以上実施する。 ③ 芸術科の各行事や取り組みを、ホームページやさまざまな機会を通じて効果的に案内・広報を行う。	② 今年は、2学期よりリーディングハイスクール事業の取り組みを開始し、地域へ活動の様子を発信できた。(R2 10回) 異校種間交流は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できなかった。 ③ 芸術科の各コースを紹介するPR動画を制作し、ホームページに掲載した。また、美術・書道についてはWEB上で「名高作品集」を鑑賞できるようにした。		
芸術科	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 各コースのPR動画制作や、ホームページへの美術・書道作品WEB掲載など、コロナ禍の中でも文化芸術の積極的な発信ができた。定期的に芸術科会議(主任会議)を開催し、各コースの共通理解や協力体制を強化した。			
	② 校内での演奏や作品展示をはじめ、校外での演奏会や作品展を実施し、生徒の持つ芸術力をアピールする。異校種間での作品交流等とおして芸術科の持つ魅力を発信する。 ③ 芸術科の各行事や取り組みを、音楽・美術・書道それぞれが迅速にホームページを更新し、積極的に地域に案内・広報を行う。	② 例年より回数は減少したが、地域への芸術文化活動の積極的な発信を心掛けた。本年度は、近隣中学校との文化祭における作品交流や演奏会も実施することができなかった。 ③ 芸術科の各コースでホームページ担当者を決め、各種行事や外部講師による講座、日頃の学習活動の様子を迅速に更新し、地域へと発信した (R2更新数 芸術科42回)				



自己評価		学校関係者評価							
重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策			
防災・安全教育の徹底と環境教育の推進	⑧防災・安全教育の徹底と環境教育の推進	総務課	<p>評価指標</p> <p>① 避難訓練を年2回実施する。</p> <p>② 外部機関と連携した防災教育を実施する。</p> <p>③ 防災クラブの活動を十分に行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 8月と12月において2回の避難訓練を実施できた。</p> <p>② 石井消防署と連携し、避難状況の確認や消火器訓練を行うことができた。</p> <p>③ 防災グッズの在庫確認等の活動を行った。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 防災マニュアルの改正を行い、教職員への周知を行った。生徒数減少に伴った避難経路の変更等もスムーズに行えたが、生徒の活動である防災クラブについては充実を図る必要がある。</p>	南海トラフ地震への関心だけでなく、大雨や台風などの異常気象に対する備えも必要である。様々な災害を想定した訓練の充実を図ってほしい。	○災害時に備え、防災教育の充実を図る。また、防災クラブの活動内容について検討し、年間を通じての活動を推進したい。		
			<p>活動計画</p> <p>① 緊急時に適切な行動がとれるようにするため、地震・火災を想定した避難訓練を実施する。</p> <p>② 安全確保に対する意識を高めるため、防災教育を充実させる。</p> <p>③ 防災クラブの活動として、1・2学期末に防災活動を積極的に行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 8月に地震を想定、12月には火災を想定した避難訓練を実施した。</p> <p>② 文化祭の展示でハザードマップや過去の災害写真などの展示を行い、理解を深めることができた。</p> <p>③ 文化祭等での活動は行えたが、学期末の活動としては不十分であった。</p>					
			<p>評価指標</p> <p>④ ゴミの分別をすることがECOにつながることを自覚させる。</p> <p>⑤ 環境を整え学習効果をあげるとともに、美化を推進する。</p> <p>⑥ 地域の美化に貢献する気持ちを育て、奉仕の精神を養う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>④ 積極的に取り組み、分別することができた。</p> <p>⑤ 日常の清掃や、掲示物等の環境の美化に努め、快適な環境で学習に集中することができた。</p> <p>⑥ JRを利用している生徒も多く、登下校時も地域の方々に協力していただいていることを自覚し、奉仕したい気持ちは培われている。</p>				<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 教職員・生徒共に、熱心に清掃活動に取り組み、学校が美しく保たれている。地域に奉仕したい気持ちはあるが、今年度は諸事情により、校外清掃活動ができなかった。条件が整えば、また清掃活動も行っていきたい。</p>	○今後とも、校内の美化に務め、地域に貢献する気持ちを育てていきたい。ECO対策については、我々にできることを、もう一度考え、取り組んでいきたい。
			<p>活動計画</p> <p>④ ゴミ分別チェックを実施する。</p> <p>⑤ 月に1回大掃除を実施する。</p> <p>⑥ 1, 2学期末に校外奉仕活動を積極的に行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>④ チェック表が十分に整備できていなかった。今後気をつけたい。</p> <p>⑤ 月に1回の大掃除は実施でき、学期末の大掃除、ワックスがけも実施した。</p> <p>⑥ 1学期末は、コロナウイルス感染拡大の影響で、学習時間の確保のため、2学期末は学校の前面道路の拡張工事のため実施できなかった。</p>					